

# 「身体技法と文化様式」

講演&ワークショップ 矢田部英正 (文化史家)

2013年4月20日(土) 14時 — 17時  
入場無料

東京大学駒場キャンパス コミュニケーションプラザ身体運動実習室3

東京都目黒区駒場3-8-1 大学生協の建物3階

※かんたんなワークショップがありますが着替などの必要はありません

わたしたちの身体には、近過去からはるか古代の記憶までが内在しているのではないだろうか。現在の身体にその痕跡をさぐるため、「記憶と身体」をテーマに3名の講演者がそれぞれ「身体技法」「身体音楽」「身体文化」をキーワードに、レクチャーとワークショップから明らかにしていく。

第1回目は、日本身体文化研究所代表の矢田部英正氏が、私たちの日常を取り巻く物質文化の様式を「身体技法」の視点から読み解き、日本人が古来育んできた美意識の起源をヨーロッパや東アジア諸国とも対比をしながら、「文化の型」を形づくる身体的作用について考える。



矢田部英正 (Yatabe Hidemasa)

日本身体文化研究所代表。筑波大学大学院修了。インターハイ、全日本選手権等に出場。選手時代の姿勢訓練が嵩じて日本の伝統的な身体技法を研究する。整体協会の身体教育研究所で研鑽を積んだ後、国際日本文化研究センター、文化女子大学大学院にて「和装と身体」のかかわりを研究して博士号取得(被服環境学)。学位論文は『たまたまの美学～日本人の身体技法』として中公叢書より刊行。姿勢研究の一環として1999年より椅子の開発に着手。開発、デザイン、制作までを手がける。著書に『美貌の文化史～神と偶像』(中公文庫)、『椅子と日本人のからだ』(ちくま文庫)、『からだのメソッド～立居振舞いの技術』(ちくま文庫)など多数。